

放送大学通信

on air

オン・エア

no. 82

発行日 平成18年6月10日

発行 放送大学

〒261-8586 千葉県美浜区若葉2丁目11番地 043-276-5111(代)

CONTENTS

卒業研究を書き上げて	1
平成17年度放送大学学位記授与式	4
平成18年度開設・改訂科目紹介	7
学習センターだより	10
研究室だより	11
就任のあいさつ	12
学習センターの移転について	16
卒業研究の申請方法が変わります！	17
何度でも学べる独習用教材「初歩のパソコン」	18
授業科目案内をリニューアルしました	18
Open Forum (大学院教育研究成果報告) 第2号について	18
キャンパスネットワークホームページの改善について	18
教務のお知らせ	19

卒業研究を書き上げて



卒業研究のすゝめ

生活と福祉 堀口 貴恵子

「せっかくなので記念履修」という軽いノリが一番の動機で、夏

冬の気温差60 前後の北海道北部、多雪寒冷地の地域生活に視点をおいて卒業研究として成立しそうな課題を探し、その中から「道北地域・下川町における地方自治体としての福祉住環境への取り組み」を研究テーマとしました。

研究過程での文献・資料などの収集は短大図書館司書という仕事柄難しくはなかったのですが、実際に現地を訪問しての聴き取り調

査、資料集め、アンケートなどは日程調整が難しかったり、「個人情報保護法」の壁があったり、思うように事が運ばず悩んだこともありましたが、下川町の担当者のご協力、担当教員の松村祥子教授の指導や家族、職場の方々の協力もあり、毎月提出していた報告書をまとめ、残り時間1ヶ月から猛ダッシュして何とか形にすることができました。

書き終えるまでは「本当に出来るのだろうか」という不安が先立ちましたが、このような形で一つの視点で物事を追求し自分の考えをまとめるという機会は、大

変良い経験となりました。さらに、異年齢、異業種、異経験のゼミ仲間でのディスカッションも、異なる視点の新鮮さ・面白さがあり、放送大学ならではの醍醐味を味わうことができました。

皆さんもあまり難しく考えずに、「身近な問題を探る」と捉えて卒業研究にトライしてみませんか？ 数ヶ月という時間の中でできることは限られていますが、達成感と次のステップに繋がる何か、そして「全国に同じように頑張っている仲間がいる」のを実感して下さい。

是非、挑戦してみてください。



フーリエ解析をより身近なものに

自然の理解 坂東 靖人

放送大学で、「解析学」「応用数学」「パソコンによる

解析学」「数学の歴史」「有機構造解析」などを受講し、フーリエ解析の有用性を感じ関係する入門書や参考書にも目を通しましたが、力不足のため理解し切れませんでした。そこで逆転の発想により、

完成した理論を追うのではなく、理論が完成していく過程を辿ってみてはどうか、と考えるようになりました。また、最近はパソコンを使えば、専門家でなくても実用的な周波数スペクトル解析を体験できることを耳にしました。

卒業年限まで1年半を残し、上記の内容が卒業研究の対象になるのか、修学指導課(現修学支援課)

に質問票を出したところ、熊原啓作教授のご指導を仰ぐことになり、お会いし話を聞いていただき、テーマ名も決めることができました。直ぐ研究に取り掛かれましたが、数学の文章を書くのも、それをパソコンソフトで清書するのも初めての経験であり、慣れるのに苦労しました。また、テーマが大き過ぎるのは覚悟していました

が、やはり未知の用語が続出し、取り組んでいる問題点が数学のどの分野に属するのかも分からず、考えが迷走、飛躍し期限内の完成が危ぶまれました。しかし、面接指導が重なるにつれ、落ち着きを

取り戻し、元氣も湧いてきました。終わってみれば、この分野はいかに目覚ましい発展を遂げたのかわることができ、そういう時代に自分も生きているのだ、と実感することができました。今回の研究



「知りたい」という思いが、研究の原動力です

私は産業と技術専攻の鈴木基之教授のもとで卒業研究に入りました。研究テーマは、『お台場海域浄化実験の検討 環境工学からの取り組み』としました。

お台場海域浄化実験とは、東京都環境局、港湾局、下水道局が合同で平成14年～17年度の4年間で実施した施策です。目標を子供達が水辺で安心して遊べる水質に定め、実験場所のお台場海浜公園海域に浄化処理（生物膜ろ過後に紫外線消毒）した海水を放流しました。そして、毎日海域の海水を分析して効果の有無を三局で検証してきました。

私も東京都の職員ですが、実験とは別の業務をしていました。そ

こで、外部の視点から環境工学の理論や技術を用いて海域浄化実験を分析検討し、効果や課題を発見して技術面や環境政策に対する提言を行いました。なお、論文作成の際には放送大学で履修した「環境工学」等大学院・学部科目の内容を十分活用しました。また、私は水の化学分析（環境分析）や上水・下水処理技術が専門ですので、専門分野の技術や理論も活用しました。

卒研履修中は転勤と重なり、業務で調査研究も行い多忙でした。ですが、on air 79号で鈴木先生の研究室だよりを拝見し、先生より直接電話をいただいていたから再び奮起して一気に論文を作成しました。提出1週間前には実験担当部署の東京都環境局・東京湾係を取

では、さらに新たな事項に沢山出会い、興味は尽きません。これからは同好の方とのおつきあいも求め、数学の楽しみを続けていきたい、と思っています。

産業と技術 長谷川 賢

材し、掲載許可を得て最新のデータと情報を論文に追加しました。そして、論文提出は締切期限直前の20分前でした。今も、諦めずに提出できて本当に良かったと考えています。

卒業研究を行うと、時間の確保が重要です。しかし、一番大切なのは「自分が知りたいことを研究したい」という思いです。その研究ができるのは、放送大学です。卒研を終えると、充実感と満足感を得られます。先生方にも「研究したい」という思いが伝われば、様々な支援をして下さるはずで、多くの方々に、卒業研究を通じて「自分が知りたいことを知る喜び」を実際に味わっていただきたいと思います。

人間の探究 首藤 淑江

確認し、舞妓さんにインタビューをしてアンケートもとった。

また各都道府県庁の観光課に、県内に芸妓さんがおられたら、その組合を教えてくださいという旨の手紙を返信ハガキを入れてお願いした。そして各芸妓組合へ電話をし、舞妓さんがおられるか、芸者・舞妓さんは何人か、また修業システムなどお聞きした。こうして全国の芸者・芸妓・舞妓の人数の表が出来上がり、京都と比較検討できるところまでこぎつけた。

色々な方たちの協力を頂いて、出来上がった卒業研究であった。そして尚且つ、知る気持ち・分かる喜び・それ以上に人に優しくを実感した。私にとって最も充実した1年であった。

自己評価80点



～ 大胆な構想、強固な論理、緻密な実証、そして明快な文体で時代を突き動かすような論文～

高橋和夫先生の『国際政治の論文の書き方』に書かれてある。

論文を書いたのは短大のときに一度だけだった。それも論文と呼べるほどの出来ではなかった。大学院に入学することを前提に卒業を目指してきた私にとって、「これは大学院での研究のための良い

練習だ。これを乗り越えなければ、その先に進めない。『研究』と呼べる何かを、大学側に示さなければならぬ。」そう考えて卒業制作に挑んだ。

結果、得られたものは予想以上だった。無論、上のような大論文には遠く及ばない論文ではあったが、出来たものより出来る過程における収穫は大きかった。インターネットでの検索や、市立図書館で論文の閲覧を依頼することなどの方法。論文を構成する一文一文、一句一句を自分のわずかな蓄積の中から搾り出すという作業。自分

社会と経済 清田 智子

はいったい何を言いたいのかという自問自答。孤独な戦いではあったが、相談した先生方は、論文以上の大切なことを教えてくれた。これらの全てが、自分を成長させた。

自己評価を「80点」としたのは、満足しながらも、自分にはまだまだやれるという可能性を見出したからだ。幸い自分を拾ってくれた大学院があり、この春からその残りの「20点」を自分なりに消化していくつもりだ。いつまでも「80点」のままかもしれない。しかしいつかは、「時代を突き動かすような論文」を書きたいと願う。

発達と教育 奥居 みどり

知らない、女性は化粧をするときなど鏡をのぞくが、表情を感情と関連させて自分がどのようなときにどのような顔の表情をしているのか案外不確かなものである。

放送大学の映像での授業を含め、日常のあらゆる場面で「顔の表情」に注目するようになった。例えば電車の中で私は怪訝な表情をして、周りの人の顔の表情を観察する「変なおばさん」に見えているだろう。いつも微笑んでいても可笑しなものである。今しばらく、私は「顔の表情」と取り組んでいくつもりだ。

それ以前、そしてその後



卒業研究は自分の現在の興味を具現化することができる。

今の興味を一生持続することはないだろうから、難しく考えすぎると、まずは取り組むことを薦める。

研究のテーマをひとつ選ぶことは、とても難しい。貴重な時間を費やすと思うとなかなかひとつに絞れずあれだこれだと思いつくものである。常に書き出していると良いかもしれない。出来ること出来ないことの目安にもなるだろ

う。私は大学卒業を目指したとき、卒業研究を行いたいと思った。卒業研究を行うために卒業を目指したとも言える。放送での大学の授業が一方通行であることに、物足りなさもあったからだ。研究の時期が一番勉強をした。実験をし、多くの本を読み、長い時間机の前にしがみついていた。それまでの学生生活にはなかった指導教官とのコミュニケーションもとることができ、問題意識を持った有意義な期間になった。私の研究テーマは「顔の表情が伝達内容の理解に及ぼす影響」。

自分の顔の表情を意外に自分は

卒業研究がよりとり易くなります - 主体的にまとめる学習 -

大学通信専門委員会委員長 杉本 大一郎

本号では卒業研究を取りあげました。それぞれに書き上げた満足感が伝わってくると共に、自分で設定した課題を研究して、学習の新しい側面を見出したことも述べられています。

話は飛ぶようですが、大部の百科事典を繰ると、「なんと多様で豊富な知識が集積されていることよ」と思います。しかしひとたび「このことについて調べたい」となると、ピントのあっている記述

が殆どないのも確かです。研究とはそのようなものなのです。視点と思考の多様性は事実の多様性を超えることができます。だからこんなに多くの知識の集積があっても、研究というものが成り立つのです。

放送大学では、誰かが体系づけた知識を学ぶことになり勝ちですが、主体的な学習の経験もしてみましよう。その方法が身につくと、今後あらゆる局面で役立つでし

よう。

より履修し易くなるように、今年度から申請方法等が変わります（17ページ参照）。蛇足ですが、本号に取りあげたのはすばらしい研究ばかりでした。一般には、やっと論文を提出したという方も数多くおられます。でもそれなりに、目から鱗が落ちたような進歩を遂げておられます。「案ずるより生むが易し」です。



古都 京の芸妓・舞妓と祇園町

京都では芸妓・舞妓が江戸時代より活躍している。お茶屋のもつ独特な世界で芸妓が具現する文化が育まれてきた。なぜ祇園町が有名になったのか。どのようにして文化・伝統が引き継がれてきたのか。他都市でも存在しているのか。また観光都市京都において花街とはどのような存在であるのか。

京都に住んでいながら何も知らない自分の為に、また受身だけの勉強ではなく、論文を書くという積極的な勉強の為に卒業研究に取り組むと思った。

しかし論文の書き方も分からず、ましてパソコンもした事もな

い60過ぎの私にとって、まずしなければならぬ事は分かりきっていた。

そして芸妓・舞妓の文化とはどのようなものかに始まり、その歴史と社会状況を図書館で調べ、読んでいった。

この頃になると、挫折しかけていた気持ちが、だんだんと興味津津となり、色々な構想が浮かんできた。

そして、パソコン技術も上達し、メールでの添付方法も分かってきた。

京都には5つの花街にお茶屋組合がある。各組合長にお会いして、行事や修業システムを聞き、をどりの会を見に行き、各花街の特色をだし、継続されてきている事を

平成17年度 放送大学学位記授与式



平成18年3月11日、平成17年度学位記授与式が、幕張メッセ・イベントホールにおいて挙行されました。当日は、文部科学省、総務省、NHKなどから多数の来賓を迎え、学部卒業生と大学院修了生をあわせて、およそ1,400名が出席しました。学歌合唱、学長告辞、小坂文部科学大臣ならびに竹中総務大臣（代理：清水総務省政策統括官）からの祝辞に引き続き、卒業生・修了生総代による答辞で閉式となりました。学長告辞の概要については次のとおりです。

学長告辞の概要 放送大学長 丹保 憲仁

平成17年度には、5,487名の方が教養学部を卒業され、また、大学院文化科学研究科修士課程を436名の方が修了されました。今日ここに放送大学を代表いたしまして、皆様に学士（教養）修士（学術）の学位記を差し上げることができると大変喜びに存じます。公務ご多忙の中、小坂文部科学大臣の他多数の御来賓のご臨席を賜り心より御礼申し上げますとともに、卒業生・修了生の皆様の修業をお祝いいただくことができましたことを大変嬉しく思います。

放送大学は開学22年目を迎え、平成元年の第1回教養学部卒業式以来、現在までに4万601名の卒業生を、また平成16年の第1回目

の大学院学位記授与以来、現在までに1,147名の修了生を世に送り出しました。そして現在、10万人に及ぶ学生が本学で学んでいます。

人が学ぼうとする目的は様々であり、その一つは職業の力量を高め生活の糧を得るための技を学ぶということ、もう一つは、自分が生きているこの時代の位置を歴史的・空間的に知ること、これが現代の教養の本義であります。

人類が直面する現代の諸問題は、人間の持つ本性（さが）に根ざしているとは言え、この十何年様々な困難が歴史的に類を見ないほどの頻度で発生しており、今こそ基本に立ち返って考え直すべき時期が到来しているような気がいたします。

英国に始まるエネルギー革命以降、人類は化石エネルギーから原子力エネルギーまで手に入れまし

た。また、フランスに始まる人間精神の解放以後、近代という時代をひたすら邁進し、地球を嘗め尽くしてその成功体験を基に、経済成長を普遍的・卓越的な評価指標と信じて来たのではないかと思います。その結果、20世紀までの近代文明は、「成長こそが成功であり、経済成長を維持し続けることによって人類の諸問題は大抵処理できる」と考え、我々は自由と



安楽を求めて、人類の歴史から言えば非常に短い繁栄を謳歌したのだと思います。

世界は多くの人口をかかえ、水・エネルギー・原料資源等の枯渇、環境の汚染、食料獲得空間の不足が現実のものとなりつつある今日、「経済成長が幸福の増進の単一尺度であり得たことから、淘汰・退場の尺度にも使われる」状況にもあるからこそ、文明が再び「精神的な覚醒」を「技術革新」と共に求めて始めているように思えてなりません。

歴史は、円を描いて元に戻ることはありません。二次元的に見れば、平面の上で円を描く復古的に見える事柄であっても、三次元的に見れば文明は螺旋を描いてワンピッチ高みに、違うレベルに上がって行きます。もしかすると、近代社会を経た上で人口が急減少しそうな日本が、世界に先駆けて新文明の螺旋を最初に昇っていく国になるのかもしれませんが。近代化路線の一周遅れの線形的な延長線上にいつまでも我々の未来があるとは思えません。スパイラルを描いて回転しつつ新時代への創造的な展開を考える必要があり、本当の先駆的な思考が今の日本に求められているのではないかと思います。

私は学生時代から半世紀にわたって、北海道大学で学び、仕事をして参りました。北海道大学の前身である「札幌農学校」は、日本で最初の近代的な大学として明治9年にクラーク博士によって創設されました。その博士が札幌農学校を開学する際、「細かい学校の規則は不要である」と言い、学生に「紳士たれ」という言葉を語りました。学生達はこの師の言葉を「よし」として、日本の近代を彩る先達となり、新渡戸稲造、内村鑑三、宮部金吾、広井勇、町村金弥などの先達の系譜を引く多くの志のある、高い力量を持った優れた人々が戦後の日本を導きました。しかしながら戦後60年を経た今日、各界において枢要な地位にある人々の中にも、人としての大きな欠陥と不信を見ることが少なくありません。「人としての修養・

修練」をあまり言わなくなった現代の「経済・技術社会の突出」と「人間教育の不十分」こそが、現代日本の大きな問題と考えざるを得ません。自らが存在している歴史的位置と空間的位置を良く知ることなしに、近視眼的且つ刹那的に行動することの危険を思わざるを得ません。「人としての基礎的な位置決めである教養を学び続けること」によって始めて、職業的な経験・技術が、生活の糧を得る技としての確に社会に収まって行くのであり、その逆はあり得ません。

教養を学ぶということに競争はあり得ません。この大学には競争はありません。自身のための「修練と修養」があるのみです。急がずに、不必要な競争をせずに、人の存在そのものを学ぶこの放送大学に、10万人の学生が今学んでいることを皆様と共にわが国のために慶びたいと思います。新渡戸稲造先生が書き残した言葉の中に「Haste not, Rest not」という言葉がありますが、このいそぐな、ただし止まるな」という言葉こそが、我々が学ぶときの至言であると思います。我々がこの大学で学んできたことを常に磨き続け、これからも進んでいきたいと思えます。

専門性の強い科学技術が突出した、ひたすら成長を求めた近代社会、それを、「調和がとれ節制の行き届いた」、「成熟した人類活動が展開する」、これからの時代に導くためには、文化的素養と科学技術を共に丁寧に学ばなければなりません。

子孫に何を残し、何を残さないかということを適切に学びとるために、深く学び、自分以外の者、とりわけ自分達を継ぐ次の世代に恥ずかしくない振る舞いが出るように、たった一度しかないこの人生で努力をしたいものと思えます。この大学が目指す教養学の神髄は、そこにあると思えます。

この大学で学び進んで今日の良き日を迎えられました皆様とご家族のご多幸をお祈り申し上げます共に、同時代に生きている仲間として新しい時代の創造に共に努力することを希望いたします学長の告辞と致します。



文部科学大臣 小坂憲次さん



総務大臣代理 総務省政策統括官 清水英雄さん



大学院修了生総代 原義信さん



学部卒業生総代 時田玲子さん

卒業生からひとこと

職業人・主婦・学生と多くの役割を抱えながら一番気をつけたのは、心の余裕を失わないことでした。その点マイペースで自宅学習可能な教育システムは私にピッタリでした。今を一つの通過点として精進したいです。
生活と福祉 松村伴子

大検からチャレンジして10年、本年放送大学の卒業生となりました。目標を持ち、あせらず、時は味方してくれ、「継続は力なり」と思いつつ頑張ってきた。貴重な勉強ができました。60歳これからその成果を発揮したい。
生活と福祉 小林正憲

放送大学に入学し、学ぶことの楽しさを知りました。選科4年全科4年の8年間、よく卒業できたものと喜びを新たに感じています。今後は認定心理士の資格を取得し、看護の仕事に、反映させていきたいと思ひます。
発達と教育 岡田恵美子

誰でも入れる放送大学は誰でも（簡単に）卒業できるわけではありません。自分で時間を見つけて学ぶ事は想像以上に大変な事でした。仕事が忙しく投げ出したくなった時期もありましたが続けてよかった!! 祝卒業!!
発達と教育 檜橋恵里奈

専業主婦から、介護福祉士として働く現在まで10年間かけて卒業しました。面接授業の「政治学文献講読」は楽しかった。
社会と経済 服部真弓

母子家庭の生活も落ち着き始め、人生でまだ成し遂げたい

い事への挑戦として始めましたが仕事と育児の両立をしながら、安い授業料で学べる放送大学は最適な教育機関でした。学ぼうとする気持ちに年齢制限はありません。
社会と経済 吉本眞理

あきらめないで良かった11年この間様々な事を学び色々な経験をさせて頂きました。「ありがとう放送大学」今日卒業することが出来ました。継続した事が私の人生に大きな自信となって帰って来たような気がします。
産業と技術 桜井正博

6年半の修学で卒業となりました。第一に家内の協力と励まし、第二に本人の継続への集中力かと思っています。特に卒研への挑戦は卒業への集大成としては是非やってみるべきかと思ひております。
産業と技術 大森喜市

卒業までの5年間で最も印象に残ることは、最後の年に卒業研究に取り組んだこと。初めての論文執筆に先生の熱心なご指導で少しずつ組み立てられていく過程を経験できたことは強く心に残り、今後に生かしたいと思ひています。
人間の探究 尾崎勝美

古稀を迎えた年、めでたく卒業となりました。老親の介護をしながらの学習は、妻の協力なしでは考えられません。妻に感謝しつつ勉強そのものを楽しみ味わう5年間でした。まさに「生きることはまなぶこと」でした。
人間の探究 滝澤 覚

会社の勤務では満たされない物を求めて入学しました。色々苦労もありましたが、多くの知る喜びを経験し、達成感を味わいました。4月からは、また大学院で学ばせて頂き、成長させて頂きます。ありがとうございます。
自然の理解 三輪潤次

若い頃にとった理系の修士号に続いて二つ目の修士号です。これからも引き続きこの研究を続けて行きます。2年間、ありがとうございました。
総合文化（文化情報）磯貝謙介

平成14年入学直後に病に倒れ2年間の休学を経て、今回の修了に至ったことは感無量です。私の体調と障害をもった娘をもつ家庭の事情を理解して下さい修士論文を指導して下さい本間博文先生に感謝いたします。
総合文化（環境システム）伊集院直子

修了式の学長告辞は、まさに私が一生のテーマとしている環境保全の大切さを示すものでした。私が放送大学大学院に入った目的は、環境保全に役立つ情報を多く発信するためであり、修了後も、目的に向い進みたい。
政策経営 町田勝

放送大学は通信制だから孤独な学習が続くのだろうと予想していたが、予想に反して全国に研究仲間が沢山できた。大学院修了にあたり、自分の視野と仲間の輪が大きく広がったことがなによりの成果である。感謝!!
教育開発 樋口朗

平成17年度教養学部卒業生数

	生活と福祉	発達と教育	社会と経済	産業と技術	人間の探究	自然の理解	計
17年度1学期 (H17.9)	784名	803名	187名	138名	284名	119名	2,315名
17年度2学期 (H18.3)	1,026名	1,089名	246名	180名	422名	209名	3,172名
計	1,810名	1,892名	433名	318名	706名	328名	5,487名

平成17年度文化科学研究科修了者数

	総合文化		政策経営	教育開発	臨床心理	計
	文化情報	環境システム				
17年度1学期 (H17.9)	2名	4名	2名	2名	0名	10名
17年度2学期 (H18.3)	108名	110名	101名	60名	47名	426名
計	110名	114名	103名	62名	47名	436名

学部
開設科目

平成18年度開設・改訂科目紹介

心理学入門 ('06)

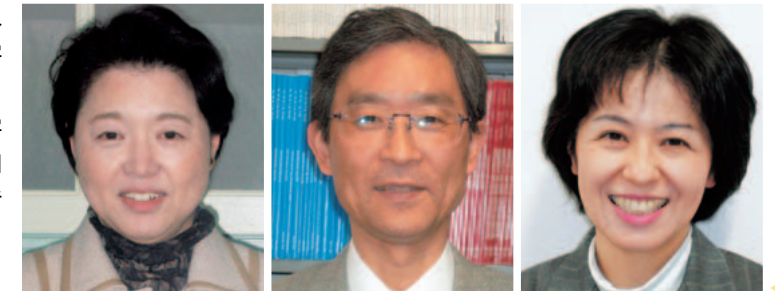
心理学というと「自分でも知らない心の奥を分析すること」とか、「他者の心の悩みを解決するもの」などと考えている方が少なくないかもしれません。もちろん、それも心理学の大切な一部分ですが、心理学にはもっといろいろな顔があります。心理学が扱うのは、私たち人間の行動や心的過程が関わる総ての事柄だと言えるでしょう。いえ、人間だけでなく動物たちの行動や心だって、心理学の重要な対象なのです。

私たちが知らないのは、心の奥深くだけとは限りません。私たちが日々当たり前のこととして行っている事の中にあって、改めて考

えてみると、「なぜ、どうして」そんな風にするのか、充分説明できないことが数限りなくあるのです。それらの「なぜ」「どうして」を、事実の裏づけを求めつつ説明していこうとするのが、心理学という学問のやっていることです。「心理学入門」では、これから心理学を中心に勉強してみようと考えている人や、心理学がどんなことをする学問なのか知りたいと考えている方々のため

に、現代心理学が扱っている幅広い領域の中から、代表的だと思われる話題を紹介していきます。そこで扱われているさまざまな話題の中から、もっと知りたいと思う事柄を見つけて、より専門的な科目へと進んで行くための道案内をするのが、本科目の役目です。

発達と教育 助教授 星 薫
東京大学大学院 教授 山口 勸
(放送大学客員教授)
お茶の水女子大学大学院 助教授 青木 紀久代
(放送大学客員助教授)



星薫 助教授 山口勸 教授 青木紀久代 助教授

基礎化学 ('06)

化学が自然科学の1分野として着実な前進を見せるようになってから、まだ200年しか経っていません。しかし、化学は理学、工学分野はもちろんのこと、医学、薬学、農学、生命科学、環境科学など科学および科学技術の広い領域を支える基礎として不可欠の地位を確立しました。化学がセントラルサイエンスと呼ばれるようになったゆえんです。

21世紀に入った現在、私たちは地球の環境問題という大問題に直面しています。この問題は専門家任せでは解決しません。一人一人がこの問題をどう考えるかが大切であり、そのためにも化学知識が欠かせません。言い換えれば、いまや化学は地球市民が等しく備

えるべき「基礎知識」になりました。

このようなことを考慮して、本講義は化学に関する予備知識をあまり持っていなくても勉強できるように、できるだけ平易な説明を心がけました。

私たちが日常使っている衣服、医薬品、家庭内の様々な物品、車など多くのものが化学的な操作を経て作り出されたものです。しかし、その生産現場を見た人は少ないと思います。本講義では、金属、プラスチック、シリコ

ーンなどの生産工場を現地取材した映像を紹介しています。また、国内のいくつかの研究所を訪問し、先端的な研究現場も紹介しています。さらに、近代化学の発祥の地であるイギリス（マンチェスターの化学と産業博物館）、ドイツ（ハイデルベルグの薬局博物館およびギーセンのリービッヒ博物館）の現地取材も行い、化学の発展の道筋を紹介しています。

自然の理解 教授 荻野 博
青山学院女子短期大学 教授 渡部 徳子
(放送大学客員教授)
自然の理解 教授 濱田 嘉昭



荻野博 教授 渡部徳子 教授 濱田嘉昭 教授

韓国語入門 ('06)

韓国語入門 ('06)

日韓共催のワールドカップや「韓流ブーム」が契機となり、大学や語学学校などで韓国語を勉強する人たちが急増しています。以前と異なることは、老若男女さまざまな人が韓国語を勉強しているということです。隣国の文化を知りたくて、旅行に行きたくて、ドラマや映画を見たくて、など動機もさまざまで、それだけ韓国語学習者の裾野が広がったとすることができます。日韓の相互理解のためにも大変望ましいことだと思います。

韓国語は文法の面では日本語とほとんど同じなので、英語などに比べると短い時間でいろいろな表現を使えるようになります。問題は最初にハングル文字を覚えるこ

とですが、基本的にローマ字と同じ原理なので、見た目より覚えるのは簡単です。少し勉強すれば、これまで記号にしか見えなかったハングル文字が読めるようになります。韓国語入門では、ハングルの覚えるほか、簡単な会話によって韓国の人とコミュニケーションができるようになること、掲示や簡単な説明文を読めるようになることをめざします。さらに韓国語入門では、いろいろな表現を使って韓国の人とコミュニケーションができるようになること、

新聞記事などを読めるようになることをめざします。韓国語を勉強すれば、今まで何気なく見ていた韓国関係のテレビ番組も違って見えることでしょう。とりあえず、始めてみることをお勧めします。



生越直樹 教授



根本理恵 助教授

人口減少社会の生活像 ('06)

この科目は、人口減少によって特徴付けられる社会の実態を多方面から把握し、これからの時代の生活者像を探ることを目的としています。

少子高齢化と人口減少は、社会モデルの転換をせまる大きな要因です。それに加えて、情報化やグローバル経済化が進んでおり、これらが相まって、人々の生涯のあり方、地域社会の様相、仕事の世界を大きく変えつ

つあります。このような社会変動のなかで、新しい生活者像を作り上げていくためには、過去・現在・未来を正しく理解し、判断できる力量を身につけることが必要です。

環境や資源には制約があり、経済の限りない拡大には限界があります。「成長」に換わる目標は何か、真に豊かな暮らしとはどのようなものなのか、そのためにはどうしたらよいか

生活と福祉 教授 宮本 みち子

を、この授業を通して考えてほしいと思います。



東京大学大学院 教授 生越 直樹
(放送大学客員教授)

東京大学 非常勤講師 根本 理恵
(放送大学客員助教授)

授業研究と談話分析 ('06)

授業という言葉聞いてあなたはどのような場面を思い浮かべられるでしょうか。黒板を背にして立った先生の講義や教室の机やいす、あるいは教科書やノートでしょうか。日本では「授業」は明治時代になって始まった学校教育の方法です。そして今では多様なメディアを用いているいろいろな場所や形態で授業が行われるような試みも行われるようになってきています。生徒として授業を受けた側からだけではなく、デザインし教える側や観察者として分析する側から視点を変えて授業をみてみると、学校で受けてきた授業の仕組みや学習過程を改めて見直す機会

になると思います。これは、教師になることを志す方や教師である方だけではなく、学校という制度の中で人が集団で学ぶとはどのような過程であり、何がどのように関与しているのかという視点から、学習や教育のあり方を考える機会になるはずで。本講義では、授業を形作るカリキュラムや教材、また授業において行われる教室談話や教師の仕事、生徒の興味や学習過程を分析的にとらえることを通して、これからの学校教育のあり方を考え、学校での学習過程を近年の学習科学や教育心理学、教育方法学の知見を紹介しながら理解してもらおうことをねらい

としています。主任講師と新進気鋭の3人の講師の4人で分担して講義は進められます。実際の授業場面やゲストを招いてのトークもありますから、ぜひ印刷教材とあわせて、楽しんで聞いてください。



東京大学大学院 教授 秋田 喜代美
(放送大学客員教授)

芸術・文化・社会 ('06)

世界にはさまざまな芸術があります。この講義では、別に独立した講義が開かれている美術の領域を除いて、できるだけ多様な芸術を扱うことにしました。対象は、化粧、服飾、映画、文学、音楽、料理と多様ですが、それを扱う方針には、いくつかの共通する方針があります。

まず、その第一は、芸術を文化や社会から切り離すことをしないで、それらとの関係において見ていこう、というものです。ここでいう文化とは、集団がもっている思考と行動の様式です。そのため、人間の身体性を考えることが、第二の共通する方針になります。歌うこと、聴くこと、化粧をすることなどを扱う章では、これが顕著に現れますが、芸術の伝承でも身

体性が重要な役割をもつことが具体的に説明されていきます。

第三の共通する方針は、感覚の間の関係性に目を向けることです。人間の活動は、視覚や聴覚を個別的に用いるだけでなく、いくつかの感覚を協働させていることが多いからです。

芸術を文化と社会において考えることは、芸術をある文化や社会に固定するというものではありません。そこで、第四の共通方針として、芸術が社会や文化を越境する点への強調が生まれます。

それぞれの担当

人間の探究 教授 徳丸 吉彦
人間の探究 教授 青山 昌文

講師の依頼に応じて、多くの芸術家が舞台上、あるいは、スタジオで実演によって説明をして下さっています。また、料理や飲み物の著名な作り手が長いインタビューに応じて下さっています。どの例からも、芸術を考え直すヒントが得られると信じます。



徳丸吉彦 教授



青山昌文 教授

青森学習センター

本センターは、平成5年に弘前大学に設置されました。本センターが設置された弘前市は城下町ですが、全国的には城のほか「桜とリンゴ」の観光地としても有名です。現在の学生数は約900名ですが、漸増しています。センターの建物面積は320㎡と小規模ながら地域の「生涯学習」に大きく役立っています。平成14年には青森県の地域的利便性のために八戸市にもサテライトスペース



が設置され、放送大学の利用率が著しく向上しました。平成18年度には八戸市に「看護師学校養成所」が開校されましたので、看護師資格取得に貢献できるものと期待しています。

本センターの学生とのビッグイベントは毎年9月に弘前市繁華街で行われるカルチャロードへの参加です。学友会の皆さんと教職員が共同して歩行者天国に出展し、多くの市民に放送大学をPRしています。チラシを渡す人、風船を渡す人、お菓子を渡す人、アンケートを依頼する人、この日は一日中、みんなが一緒になって和気藹々と楽しい時間を過ごします。学生の皆さんは、自学自習から解放されて楽しく、教職員もまた学生と一緒に市民と接し、放送大学への理解を図っています。

これからも、学生の皆さんが心おきなく学んでいける環境作りを目指し、地域教育機関との連携を深め、県民の生涯学習意欲に応えて行きたいと思っています。

青森学習センター所長 豊川 好司

東京多摩学習センター

東京の西北部住民をターゲットとして4年前に設けられた当センターは、本年4月で5年目を迎え初めてここで4年間を過ごして卒業する学生を送り出したところである。本学のように比較的自由に年限の設計が可能なありようからは、格別に重いとはいえませんが、それでもこれは確かに年輪の一つを刻んだことに変わりない。ここは武蔵野の一角で玉川上水や五日市街道に沿った、一橋大学小平キャンパスの敷地において大学評価・学位授与機構の建物が隣に在る。喧噪からはほど遠い、閑雅と言った方がよい学習環境で、学生諸君は腰を据えて励んでいる印象である。JR国分寺駅から西武多摩湖線で一駅引込んだだけだが、ひどく浮世離れしている感じもある。

しかし、これは学生にも見えにくくなっているが、当センターは将来のために、インターネットが如何に有効に放送を活性化できるかという先端

的な実験を地味ながら続けてきている。その一端は既に現実のものになりつつあって、ネット社会の長短を見据えるという大事な使命を遂行している。全国では最後尾のセンターだが、ようやく同窓会支部設立のための鳴動も始まっていると聞く。今以上にバランスがとれて自由な学生生活の



東京多摩学習センター所長 野山 嘉正

自然観察から学ぶ地球科学

自然の理解 教授 木村 龍治

総合文化プログラム環境システム科学群



大学における教員と学生の立場の差は、初等・中等教育より小さい。特に、大学院の教育になると、指導教員と大学院生は共同研究者のような関係になる。指導教員といえども、教えるというよりは学ぶ意識が強いのである。

私は放送大学で地球科学を担当しているが、一人で地球科学全体の専門家になることは不可能である。他の分野でも同じで

あると思うが、次々に新しい発見が行われるので、常に研究の最前線に関心をもっていないと、自分の知識がすぐに時代遅れになってしまう。その意味でも、日々、新しい知識を吸収する必要がある。

しかし、学ぶのは、教科書や論文を通してだけではない。自然科学の場合、自然から直接学ぶという要素が大きい。私は長く東京大学海洋研究所に務めたが、研究所の仕事は、一人で行うというよりはチームワークで行うことが多かった。放送大学に再就職して、個人の興味にもどり、自然から学ぶことを始めた。

私は昔から雲に関心があった

ので、雲の観察をしてみたいと思ったのである。放送大学の研究費で、駒撮り撮影のできるデジタルビデオカメラを購入し、基本的に毎日、朝から夜まで、自宅の屋根から見える空の映像を撮影している（朝セットして夜に回収する。時間を60倍短縮してあるので、その日の朝から夜までの空の様子が10分間ほど見ることが出来る）。既に、1年半ほどのデータを取得した。昨年9月、「雲による大気の可視化」と題して、オーストラリアの学会で報告した。研究するという事は、外国に行つてめずらしい体験をするというおまけが付いている。

新しい社会モデルの探究

生活と福祉 教授 宮本 みち子

総合文化プログラム文化情報科学群



私が現在担当している授業は、学部が「人口減少社会の生活像(06)」大学院は「比較文化研究(05)～若者とジェンダー～」の2つです。この2つの科目に共通する目的は、変動する現代社会を的確に理解することであり、この社会のゆくえを展望しながら、社会的課題に対処しようというスタンスです。私がこの10

年間もっとも力を入れてきたのは、豊かな高学歴社会における若い世代の変容を通して、この社会がどうなっているのかを見据えようとするものでした。1980年代の独身貴族、1990年代のパラサイトシングル、2000年代の社会的弱者、そして最近では「ニート」と、若者の特徴の表示の仕方は変わってきましたが、その過程で見えてきたのは、ライフコースの標準的パターンというものが消失しつつあるという特徴です。工業化の時代が終わり、激しいグローバル競争の時代に入ってから、それまであ

った諸々の枠組みが衰退し、これまで自明であった前提が通用しなくなりつつあります。それは、自由が拡大するという光の面とともに、不安定性が増し、そのなかでどこにも寄り付くことのできない不利な人々が生まれる影の面を伴います。つぎの社会とはどのようなものか、そしてどのような生活モデルが有効なのかを考えています。私の研究室に所属して、修士論文に取り組む学生の研究テーマは多岐に及んでいますが、どれをとっても、底流にあるのは、このような問題意識だと思っています。

就任のあはつ



頭の中はどうなっているの

発達と教育 教授 太田 信夫
教育開発プログラム

この度、着任しました太田と申します。よろしくお願ひします。

私の専門は、心理学ですが、特に認知心理学や教育心理学の領域に興味を持っています。認知心理学は、私たちが日頃、いろいろなことを学習したり考えたりするような頭の知的な働きを研究する学問です。その中でも、私が大学の研究室でしてきたことは、記憶の実験的検討で

す。とりわけ、筑波大学にいた30年あまりは、潜在記憶の実験を中心に研究してきました。潜在記憶とは、私たちが日本語を話す場合の日本語や箸を使ったりする時の身についた技能のような、「思い出すという意識のない記憶」のことを言います。このような研究からわかることは、私たちは普段、特に意識しなくても経験から多くのことを学び、それを長く記憶し、そして認識や判断する際に無意識的に使っているということです。このような自動的・無意識的な認知機能について、包括的な理論を構築することが、現在の私の課題です。

認知心理学と関係の深い教育心理学にも、私は関わってきました。とくに、「教え・学ぶ」関係にある指導者と学習者の認知過程の解明に力を注いできました。教えることは、本当に難しいことです。自分の考えていることを相手に理解してもらうことの難しさは、どなたも経験済みのことでしょう。学習者がどのようにして知識や技能を獲得し、学力を向上させていくのか、これを少しでも明らかにしたい。

以上のようなことについて、皆さんとこれから一緒に考えていきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願ひします。



情報工学と情報化

産業と技術 教授 岡部 洋一
総合文化プログラム文化情報科学群

研究は元々マイクロ波やエレクトロニクスで、半導体や超伝導デバイスの研究、これらを利用した論理回路の設計などを中心にやってきました。また、論理回路の将来方向ということで、脳の神経回路、特にその学習機能の研究を行なってきました。学習というとパターン認識のような情報獲得系の研究が多いのですが、私は特に運動の獲

得系に強い関心があり、危険回避反射系の生成メカニズムや、複数の筋肉がどのようにして連携して外界に協調した運動を作っていくかの研究を中心に行なっていました。

こうした研究の際、コンピュータを多用したため、東京大学の教育用計算機センター助教、情報基盤センター長などにも選任され、学内のコンピュータやネットワークの普及や運用、さらには事務電算化、eラーニングの実施などにも携ってきました。したがって、コンピュータの内部の仕掛けから始まり、それらの応用技術まで幅広

い知見を得てきました。

放送大学では情報工学を担当しますが、こうした広い情報工学の現状を見すえた上で、それらがどう発展していくか、また情報工学の応用技術、その社会的影響などについての教育に従事していきたいと思っております。

また放送大学自身の教育方法も、双方向教育などより発展した情報化を目指すものと思われまます。この方面にも経験を生かせたらと考えております。モットーは「何にでも能動的であれ」です。



自然を楽しく読みとろう

自然の理解 教授 生井澤 寛
総合文化プログラム環境システム科学群

「物理の世界」は、4月からは4年目に入りますが、赴任早々、同じ題名の講義を07年度に向けて新しくすることになります。

私と放送大学の縁は、4年と少し前、「物理の世界」を新しくするので引き受けてほしいと当時の放送大学の物理担当の先生から連絡があったときからです。そのときは、帝京平成大学というところにいましたが、放送大学には、その前の任地であった東京大学の教養学部（駒場と略記）から、何人かの先輩の先生方が移っておられたので、親しみを感じていましたし、ときどきTVの講義も見ていましたので、お引き受けしました。

これでお分かりのとおり、私の専門は、物理学で、駒場では、特に極低温で現れる量子現象を理論的に研究して来ました。皆さんも、超伝導や、超流動などをご存知でしょう。また、もともとは、素粒子の研究からはじめましたので、今でも興味を持ち続けています。帝京平成大学では、情報工学科におりましたので、教養の物理や電磁気学、数学などを教えるほかに、電気回路、情報工学、アルゴリズムなど、それまでの専門以外のものも勉強して教えてきました。ですから、物理関係のかなり広

い分野と、電気・電子工学、情報学とその応用などの分野で、皆さんとお付き合いできると思います。さらに放送大学では、「複雑システム科学」という大学院の講義を共同で、やはり07年度に向けて作ります。気象、生命、進化、社会・経済現象など、複雑で、なかなか振る舞いを予測できない系をどう扱うかを見てゆこうと思います。

理科や科学離れが指摘される現状ですが、物を作ったり、簡単な実験をしたりして、自然の背後にあるものの仕組みを、皆さんと一緒に解きほぐしてゆきたいと思っています。こうすれば、自然の仕組みをだんだん理解できるようになることでしょう。



歴史研究の楽しみを共にしよう

人間の探究 教授 五味 文彦
総合文化プログラム文化情報科学群

の中世（'98）」、「中世日本の歴史（'03）」といった科目を担当してきました。私の研究のスタイルは、文書のみならず、絵巻や文学、書籍といったさまざまな中世史料を発掘し、その積極的な活用によって新鮮でかつ豊かな歴史を描くというものです。

放送大学にはこれまで客員教授として勤めてまいりましたが、本年度からは本務として勤務することになりました。住んでいるのは神奈川県茅ヶ崎市ですから、通勤には厄介ですが、その長い通勤時間をどう有意義に使えるのかもまた楽しみです。専門は日本中世史の研究で、これまで放送大学では、「日本

もちろんこの研究はこれからも続けてゆきますが、本学に移ったのを契機に、多くの学生や一般の方々と接触して新たな研究を目指したいと考えています。

私は調査のために各地を歩く

ことが多いのですが、地域の歴史をどう捉えるべきかを考えてゆくことにこれからはもっと力を注ごうかと思っています。町村合併や過疎化などによって、日本列島の各地域は大きく変貌しつつあります。そこで各地に赴いて地域の歴史を掘り起こす作業に積極的に関わってゆくこと、地域の文化財を考え、また土地の記憶といったものを探る作業に関わってゆこうと考えています。

歴史の研究の楽しみを多くの人々と共にすることを望んでいます。一緒に研究をしましょう。



哲学へのいざない

人間の探究 教授 佐藤 康邦
総合文化プログラム文化情報科学群

放送大学の学生の皆様、この度、放送大学教授に就任した佐藤康邦です。担当は、「人間の探究」の哲学・芸術 であります。私は、この3月までは、東京大学大学院人文社会研究科（倫理学研究室）の教授として研究、教育の道を歩んできました。放送大学での仕事は初めての、慣れないことだらけで不安がないと言えば嘘になりま

すが、他面、これまでとは全く異なった条件のもとで、しかしこれまでと同じく、私が長年にわたって研究してきた哲学という学問に関わり、それについて皆様にお教えし、皆様の勉強のお手伝いができるという点では、大きな喜びを感じるとともに、新たな可能性に対する期待を懐いている次第でもございます。哲学という学問は、ともすれば、難解な言葉を使うとか現実から遊離した知識しか与えてくれないのではないかという理由から一般の人々から敬遠されがちな学問であるかもしれませんが、しかし、他方で、哲学という言葉

が、その専門的内容を離れて、生き方の基本に関わる考え方を示す言葉として日常会話のなかでも使われることを見ても、この学問への憧れや興味が多くの方々の心のうちに潜在しているのであろうとも思われるのです。そうなれば、あとは、教える私の方の責任が問われることにもなりましょう。私の講義では、皆様に哲学の専門知識に触れていただくとともに、それが現代の私たちの生活にどのような新しい見通しを与えてくれるかという観点に立ってお話を進めていきたいと思っております。



生態と文化の連関

人間の探究 教授 内堀 基光
総合文化プログラム文化情報科学群

放送大学に赴任するまでの7年間、国立大学附置の共同利用研究所におりました。そこには博士課程後期の大学院生はいましたが、学部学生と修士課程の大学院生はいませんでした。したがって、私にとって放送大学での仕事はひさびさに生身の学生諸君を相手にする仕事とい

うこととなります。その意味で、今とても新鮮でわくわくするような気分です。私自身は文化人類学・民族学を専門としており、これまで東南アジアの島々の世界に住む人びとの世界観、宗教、儀礼などを現地調査（フィールドワーク）にもとづいて研究してきました。ボルネオ島や、（地理的にはアフリカに近くなりますが）マダガスカル島が主たるフィールドでした。研究主題は、上に述べたことのほか、やや理屈っぽくなりますが、民族という概念についての理論、生態と文化との関係、

資源をめぐる人類学的な研究などであり、また最近では人類進化における表象能力の問題などにも関心をもっています。教育に関しては、放送教材や印刷教材のほかに、放送大学という本質的に遠隔型である教育機関の特性を生かし、メーリングリスト（グループメール）、ブログなどを積極的に活用し、できるだけ対話型の教育を導入することを考えています。これに對面の指導を適宜加えることによって、一般の大学にもまして、教員と学生の意思疎通がはかれることを期待しております。



紛争と法 大人の学問

社会と経済 助教授 原島 良成
政策経営プログラム

初めまして。本年度より、放送大学専任教員として法学を担当させていただきます。私の研究対象は、公法分野、つまり国家をめぐる諸関係を規律する法規範です。私たちが国家の権力機構を利用して世の中を運営していこうとするとき、議会で法律や条例を作って、これによって税金を集め、公務員を雇い、例えば建築物の安全性や環境適

合性を審査し「違法」建築を是正させることができます。しかし、法律に全てを書き込むことはできませんし、また法律どおりに事が運ぶとも限りませんから、紛争が生じます。公法学は、そのような紛争を裁く際に裁判官が依拠すべき法解釈ルールを確立することと、そもそも紛争を生じさせずに理想を実現する法制度を設計することを、主たる任務としています。公法学では、国民相互の関係を規律する私法（民法）の応用能力が試されます。私法の中に息づく平衡感覚を基礎に、紛争の一方当事者が政府という特殊

な存在であるときにそれをどう修正するか、また、紛争を事前に防止するにはどのような法律条文や仕組みがあれば良いか、想像力を働かせてみましょう。様々なバックグラウンドを持つ皆さんのこれまでの社会経験は、きっと公法学の最先端に切り込む際の武器となります。原発の設置許可、産廃不法投棄対策、道路敷設と自然破壊など、世代間倫理にも関係するホットな紛争事案について、幅広い年齢層の皆さんと議論できることを楽しみにしております。

次の3名の先生方が平成18年4月1日付で本学の専任教員に昇任されました。



産業と技術 教授 河合 明宣
政策経営プログラム
専門分野
農業経済学、農村開発論
今年度担当科目名
・アグリビジネスと農業・農村('06)
・持続的発展と国際協力('03)
・人間と自然('03)



自然の理解 教授 東 千秋
総合文化プログラム環境システム科学群
専門分野
材料工学、高分子化学、発想工学
今年度担当科目名
・物質の科学と先端技術('04)
・問題解決の発想と表現('04)
・世界の産業再編成('04)



人間の探究 教授 青山 昌文
総合文化プログラム文化情報科学群
専門分野
美学・芸術論・表象文化論
今年度担当科目名
・芸術の理論と歴史('06)
・芸術・文化・社会('06)
・表象文化研究('06)

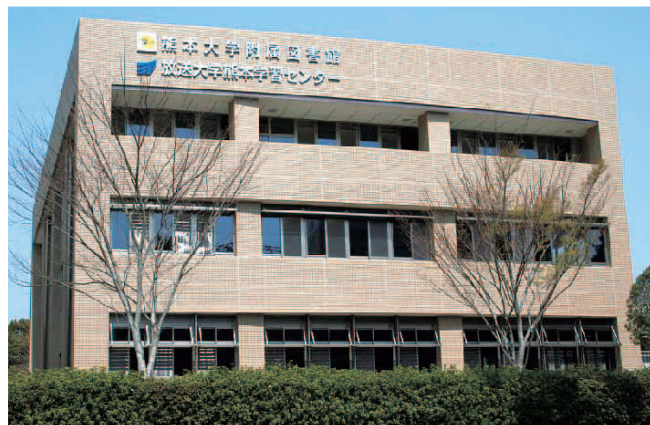
学習センターの移転について

熊本学習センターの新学舎紹介

熊本学習センター所長 柏木 潤

熊本学習センターは、平成3年以来15年にわたり崇城大学の施設をお借りして運営をして参りましたが、このほど熊本大学との合築により新しい建物が完成し、4月1日からオープンしました。場所は熊本大学附属図書館の南側です。鉄筋コンクリート造り3階建てで、1階・地階は熊本大学附属図書館の閲覧室・書庫で、2階と3階が熊本学習センターです。センターの延べ床面積は、1,106平方メートルで、2階には、視聴学習・図書室（視聴ブース33席）リフレッシュルーム（インターネット用の情報コンセント設置）学生相談・保健室、客員教員室、所長・事務室から成り、3階は第1講義室（54席）第2講義室（60席）第3講義室（54席）実習室（28席）となっていて、第2・第3講義室を合併して大講義室にすると135席になります。どの部屋も最新の設備が整備されていて、学生の皆さんが快適に勉強できる環境が整えられています。

講義室は、面接授業や客員教員による面接授業のほか、市民や地域住民のための公開講演会（月1回開催の予定）などに使用する予定で、さらに将来は熊本県や市の生涯学習活動とも連携し、熊本地区における生涯学習の拠点としての役割を果たすことを目指しています。



熊本学習センター 〒860-8555 熊本市黒髪2-40-1（熊本大学内） 096-341-0860（変更）

下記の3学習センターについても、平成18年4月に移転しました。



奈良学習センター
〒630-8589 奈良市北魚屋東町
（奈良女子大学コラボレーションセンター3階）
0742-20-7870（変更）



鳥取学習センター
〒680-0845 鳥取市富安2-138-4（鳥取市役所駅南庁舎5階）
0857-37-2351（変更）



徳島学習センター
〒770-0855 徳島市新蔵町2-24（徳島大学日亜会館3階）
088-602-0151（変更なし）

卒業研究の申請方法が変わります！

平成19年度新規履修者（平成18年度申請）から申請方法が以下のとおり変わります。

履修要件について

履修要件が履修開始時点の修得単位から申請時の修得単位に変わります。

（従来） 履修開始の条件は、3年以上在学し、93単位以上を修得した者



（平成19年度履修者から） 履修申請の条件は、2年以上在学し、62単位以上を修得した者

ア 在学期間は、全科履修生として在学（休学期間を除く）した期間が2年（2年次編入生にあっては1年）以上必要です。
イ 修得単位は、申請時の修得単位数の合計（入学時に認定された既修得単位数を含む）が62単位以上必要です。

ただし、次の方が履修を希望する場合は、特例として、申請する学期末に要件を満たす、または見込みで申請することができます。

特例者・・・平成16年度第2学期第1年次入学学生及び平成17年度第2学期2年次編入学生
- 特例者の履修要件 -

申請学期末（平成18年度第1学期末）において、在学期間を満たし、かつ、62単位以上の単位を修得見込みの者

申請時期について

【新規履修希望者】 申請期間 平成18年8月1日（火）～8月15日（火）必着
提出先 本部修学支援課卒業判定係

指導教員の希望について

指導教員について、従来の専任教員の他に、所属学習センターの客員教員をはじめとする居住地近隣の大学教員等の指導を希望することができるようになりました。

ただし、専任教員以外の指導教員については指名することはできません。

審査結果（通知）について

審査の結果、申請内容に問題がなく、指導教員が決定した学生には、「履修可」の仮決定通知をお送りします。申請内容等を変更しない方は、同封の履修確認ハガキをご返送ください。1月中旬に最終的な決定通知を送付いたします。なお、申請の研究テーマや内容を変更する場合は再申請を行う必要があります。（11月上旬）
また、審査結果が「履修否」の場合は、その理由（状況 説明）を付けて仮決定通知します。なお、「履修否」の場合でも、申請内容等の変更・修正を行ったうえで、再申請することができます。（11月上旬）

卒業研究の履修にかかる質問等について 事前相談・指導を活用しましょう

卒業研究を申請する際、卒業研究についての各種質問や相談を行うことが出来ます。卒業研究の相談・質問票は申請書といっしょにお送りください。専任教員が回答します。

再履修の授業料について

平成19年度新規履修者の再履修（平成20年度）から授業料（6単位分）が必要となります。

平成19年度新規履修に係る申請及び履修スケジュール

【申請スケジュール】

平成18年 8月1日～15日・・・卒業研究申請書及び質問・相談票の提出
10月20日前後・・・申請内容を審査し、審査結果を仮決定（通知）します。

【審査の結果】

ア 履修可の場合
申請内容を変更しない場合履修確認ハガキを提出してください。
申請内容を変更する場合再申請する必要があります。

イ 履修否の場合
専任教員から履修を否とした理由や研究テーマや内容の一部見直し等の助言を付して通知します。
なお、助言を踏まえて、申請内容等の変更・修正を行ったうえで、再申請することができます。

11月6日～10日・・・再申請書の提出
平成19年 1月中旬・・・再申請内容を審査し、最終的な履修の可否を決定（通知）します。
2月上旬・・・履修可の学生は科目登録が必要です。
3月上旬・・・科目登録決定通知（振込取扱票）により、授業料を納付してください。

【履修スケジュール】

平成19年 4月・・・授業料を納付された方には、履修許可通知を送付します。
4月・・・指導教員の指導のもと卒業研究を開始します。（指導教員による個別指導）
11月中旬・・・卒業研究報告書の提出締切り
12月・・・卒業研究報告書の審査及び面接審査があります。
平成20年 3月上旬・・・卒業研究の審査結果をお知らせします。

卒業研究履修ガイダンス（映像資料）の活用

卒業研究履修に関するガイダンスビデオ・DVDを学習センター及びサテライトスペースに配架しましたので活用してください。

（主な内容）
卒業研究の意義、テーマの選び方、卒業研究報告書の作成手順、口頭試問、手続き等

卒業研究履修の手引

卒業研究履修の手引（平成19年度履修者用）及び別冊（卒業研究申請書等）は、平成18年6月中旬に所属学習センター及びサテライトスペースで配布します。

何度でも学べる独習用教材「初歩のパソコン」

学習センター設置のパソコンを使って学ぶ教材「初歩のパソコン」が、4月からご利用いただけます。「クリック」などの初歩的なパソコンの動かし方・使い方、日本語の打ち方、インターネット・メールの使い方から、Word/Excelの基本まで、1枚のCD-ROMに収めました。学生の方ならどなたでも、学習センター窓口でCD-ROM教材をお貸し致します。学習センタ

ー設置のパソコンを使って、自分のペースで何度でも学ぶことができます。(CD-ROM教材の学習センター外持ち出しはできません) パソコン学習をスタートしたい方は、各学習センターまでお気軽にお申し出ください。どうぞこの教材でパソコンの基礎を習得し、日々の学習や学生生活にお役立ててください!

授業科目案内をリニューアルしました

放送大学ホームページ上の授業科目案内をリニューアルしました。

科目毎にその内容が一目でわかるように、「主任講師名」「放送時間」「講義概要及びシラバス」「単位認定試験日程」「単位認定試験平均点」等の情報を掲載しています。今後の学習計画や科目選択・登録の際に役立ててください。

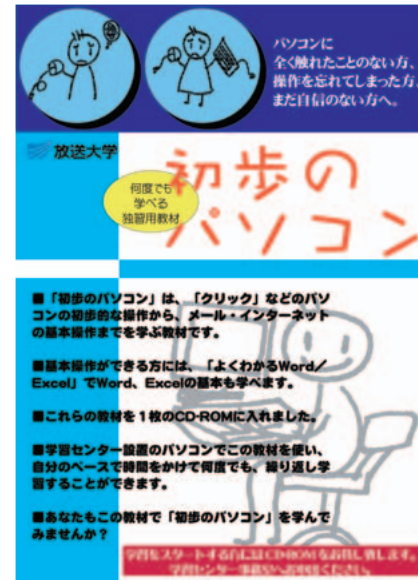
Open Forum(大学院教育研究成果報告 第2号)について

このたびOpen Forum第2号(大学院修士課程平成16年度修了生)を発行しました。修士課程に興味のある方は、各学習センターにて閲覧できますのでご覧ください。

また、ご希望の方には、各学習センター

(本部は郵送のみ)にて、通常価格900円(本学学生価格720円)で有償配布を行っています。

詳しくは本部・各学習センターにお問い合わせください。なお、本学のホームページにも掲載されています。



キャンパスネットワークホームページの改善について(平成18年4月更新)

全体デザインの一新を図るとともに、下記2の機能に次のような機能等を加えました。

- 学習参考情報提供のためのページを新設・・・ 専攻・領域・教員個人等による学習補助情報を掲載しました。
- 学習センターページの拡充・・・ コンテンツを充実し、学生向けの緊急の通達情報等を簡便に掲載可能にしました。
- 質問コーナーの機能充実・・・ 質問・回答の基本機能の充実、FAQ機能の付加、管理機能を強化しました。当該科目を履修している学生のみ質問可能にしました。
- 検索機能の充実・・・ 教員情報の検索機能を追加し、キーワード等により簡便に検索できるようにします。シラバス情報の検索機能を強化し、キーワード等により簡便に検索できるようにします。
- 掲載情報更新の充実・・・ 運用支援会議を設置し、掲載情報の更新の充実を図りました。

1 キャンパス・ネットワーク・システムとは

キャンパス・ネットワーク・システムは、各学習センターにパソコンを配置し、本部及び各学習センター間をインターネットで結ぶことにより、さまざまな学習上の情報の提供や及び学生と教員が双方向での情報の交換を可能にするシステムです。(平成11年4月より運用開始。)

パソコン等機器の更新を平成17年3月に25SCで、平成18年3月に13SCで実施、平成18年度に12SCで実施予定。

2 キャンパス・ネットワーク・システムの機能

- (1) 各種の学習情報や学習上のQ & Aを掲載した教育用ホームページ「キャンパス・ネットワーク・ホームページ」を開設し、学生が必要なときにいつでも情報を取り出すことができるようになりました。(教育用ホームページは自宅からもアクセス可能)
- (2) 放送授業に対する質問・回答を、電子メールにより担当講師(専任教員)との間でやりとりすることができるようになりました。(平成11年11月より実施)
- (3) パソコンにインストールされている各種ソフトウェアを活用することにより、面接授業や学生の学習に役立てることができるようになりました。

教務のお知らせ

教養学部学生及び大学院修士選科生・修士科目生募集

平成18年度第2学期の学生募集を以下のとおり行います。

平成18年6月15日(木) ...平成18年度第2学期学生募集要項配布開始

出願期間	平成18年6月15日(木)~平成18年8月15日(火)
可否通知等	平成18年8月上旬~平成18年9月上旬
学費の納入	平成18年8月上旬~平成18年9月末
入学許可通知・印刷教材等の配送	平成18年8月上旬~平成18年9月末
授業開始	平成18年10月1日(日)

- ・放送大学に関心があるご友人、ご親戚他お知り合いの方にも、この機会にぜひ本学についてご紹介くださり、入学をお勧めいただくようお願い申し上げます。
- また、平成18年9月末をもって学籍が切れる学生の方で、平成18年度第2学期以降も引続き学習を希望される場合は、改めて入学手続きが必要となりますが、入学金が割引になります。
- ・出願締切日は平成18年8月15日(火)必着です。
- 例年より出願期間が短くなっておりましてご注意ください。

大学院文化科学研究科修士全科生募集

放送大学大学院文化科学研究科では、平成19年度修士全科生の学生募集を以下のとおり行います。

平成19年度修士全科生学生募集要項配布開始...平成18年6月15日(木)

出願期間	平成18年8月25日(金)~平成18年9月14日(木) 18:00(必着)
第一次選考(書類審査)	平成18年9月下旬~平成18年10月上旬
第一次選考(書類審査)可否通知	平成18年10月13日(金) 発送
第二次選考(小論文試験)	平成18年10月29日(日)
第二次選考(面接試験)	平成18年11月18日(土)~平成18年11月19日(日)
可否通知等	平成18年12月15日(金) 発送
学費の納入	平成19年3月上旬~平成19年3月中旬
入学許可通知・印刷教材等の配送	平成19年3月中旬~平成19年3月下旬
平成19年度授業開始	平成19年4月1日(日)

- ・修士全科生は、修士課程を修了して、学位「修士(学術)」の取得を目指す学生です。
- ・大学卒業(卒業見込みを含む)の方またはこれと同等以上の学力があると認められた方が出願できます。
- ・募集人員は500名で、入学者選考に合格した方が、入学できます。
- ・修士選科生・修士科目生として修得した単位は、本学大学院に修士全科生として入学した場合、修了に必要な単位として通算される場合があります。

本学が行う出願資格事前審査で認められることが必要です。申請期間は、平成18年8月1日(火)~8月10日(木)です。詳細は募集要項をご覧ください。

第1学期面接授業(集中型)の追加科目登録

8月に行われる第1学期面接授業(集中型)について、空席がある科目は追加科目登録をすることができます。登録日程等下記をご確認いただき、どうぞこの機会に面接授業にご参加ください。

空席発表日:平成18年7月8日(土)

登録受付期間:平成18年7月12日(水)~7月16日(日)

空席のある全てのクラスが登録受付対象となります。

空席状況(追加登録の対象科目)は、発表日以降キャンパスネットホームページ(<http://www.campus.u-air.ac.jp/u-air/>)・各学習センターの掲示でお知らせします。受講したい科目をご確認の上、登録受付期間内に、当該科目を開講する学習センター・サテライトスペースの窓口にご連絡ください。

登録の際は必ず、学生証(コピーは不可)・授業料をご持参ください。

登録受付の方法等詳しくは、当該科目を開講する学習センター・サテライトスペースへお問い合わせください。

附属図書館の新しいサービスについて

附属図書館では、よりよい利用者サービスをめざしてホームページによるサービスを拡充してきました。現在、附属図書館のホームページから次のサービスが利用できます。

オンライン蔵書検索

利用案内

電子ジャーナル及び各種データベース

主任講師が選んだ授業関連の参考文献(平成14年度~18年度開設・改訂科目)

放送大学研究年報

創刊号~21号 目次

22号~ 本文・目次

電子展示

ちりめん本コレクション

日本残像 写真で見える幕末、明治

西洋の日本観 フロイスからシーボルトまで

刻む・写す・摺る・刷る 文字の歴史と印刷文化

さらに、今年1月に図書システムを更新し、新しいサービスを順次開始しています。昨年12月から蔵書検索システムの画面が一新されましたが、それまで表示されなかった学習センター図書室に配架してある図書の貸出中の情報が表示されるようになりました。また、本部図書館の図書については、配架場所をクリックするとその場所の平面図も表示されるようになっています。この他これから開始する

新着図書の一覧表示

携帯電話からの蔵書検索

オンラインによる本人の貸出・予約状況の確認及び貸出の更新

大学院修士全科生に対する本部図書館所蔵図書の宅配サービス(送料は自己負担)

どうぞ、新しい図書館サービスを皆さんの学習・研究に活用してください。

なお、これらのサービスの詳細については、

附属図書館ホームページ<http://lib.u-air.ac.jp/>をご覧ください。

平成18年度第2学期の科目登録申請について

次学期も引き続き学籍のある在学生を対象に「平成18年度第2学期科目登録申請要項」を7月上旬に送付します。

平成18年度第2学期の放送授業及び面接授業(毎週型・土日型)の科目登録申請期間は次のとおりです。

申請期間

平成18年7月26日(水)[消印]~平成18年8月9日(水) [必着]
(例年と日程が異なりますのでご注意ください。)

7月下旬になっても科目登録申請要項が未着の場合、あるいは紛失した場合は、大学本部もしくは各学習センターにお問い合わせください。詳しくは「学生生活の葉」をご覧ください。

編集後記

新しい年度が始まり、たくさんの新入生、新任教職員を迎えました。各地の学習センターも、活気あることと思います。放送大学の更なる前進の年になりますよう、力を合わせて進みたいと思います。放送大学は生まれ変わろうとしていますので、大学通信オン・エアの役割は大きいと思います。知恵を結集して、いっそう充実した紙面作りに努めたいと思います。

放送大学の利点は、さまざまな年齢・興味関心の人が集まっているところにありますので、他大学では作ることのできない豊かな大学通信の可能性がります。皆さまのご協力を、切にお願いいたします。紙面についての率直なご意見をお待ちしています。

(滝口 俊子)

大学通信専門委員会

(平成18年度)

委員長	教授	杉本大一郎
副委員長	同	滝口俊子
委員	同	中谷延二
〃	同	岡部洋一
〃	助教授	坂井素思
〃	同	杉浦克己
〃	同	大橋理枝
〃	同	隈部正博

(編集事務担当)

教務部学生サービス課

ご意見やご感想をお聞かせ下さい。
editor@u-air.ac.jp



放送大学学園

<http://www.u-air.ac.jp/>

ISSN 1343-3369

R100